

日本コンクリート診断士会が発足

初代会長に 林東工大教授 技術力高め地位向上へ

日本コンクリート工学協会（JCI）が認定するコンクリート診断士を支援することによりコンクリート構造物の維持管理に貢献することを目的に7月23日、一般社団法人「日本コンクリート診断士会」が発足した。14地区診断士会の会員（658人）と法人会員45社で構成し、会長は東京工業大学の林静雄教授、副会長に東京診断士会の小野定会長とNPO法人大分県診断士会の佐藤嘉昭会長（大分大学教授）が就任した。



林静雄会長

コンクリート構造物の維持管理に関する技術の進歩は著しく、個々のコンクリート診断士が最新技術を常に保有・活用し対応するのは難しく、社会的地位も確立されていない。この間に北海道、

青森、新潟、長野、東京、石川、富山、福井、静岡、東海、京滋、鳥取、島根、高知、大分の15地区に診断士会が設立されたが、そのうち富山を除く14地区診断士会が効果的に連携し、技術力の向上を図りながら、診断士の社会的地位向上も図るため全国組織に拡大することを決めた。

林会長は「組織化の検討を始めて、関係者の熟

意と協力により僅か3年で実現まで漕ぎ着けた。まだ立ち上げたばかりだが、私も微力ながら協力し活動を盛り上げていきたい」と語り、決意を示

した。日本診断士会の主たる事業はコンクリート診断士の技術力と資質向上のための情報提供、および社会的地位の向上・処遇改善のための広報活動、コンクリート構造物に関する新技術・新材料の整理・評価など診断に関する社会的問題への対応、ならびに点検・診断、補修・補強、維持管理に関

する事業。企画、広報、技術の3部会を設置し、具体的な活動内容を今後詰めていく。

コンクリート診断士試験に合格し登録した正会員と学術会員、法人会員、賛助会員で構成し、学術会員は林会長と佐藤会長と、芝浦工業大学の魚本健人教授。診断士登録者数は4月現在で7460人にのぼり、全国団体への加入者は1割弱となる。事務局は当面、東京診断士会の会長会社に置く（TEL042・320・5585、Eメール：jcd@caadr.jp）。